茨歯会報

No.567

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

July
2016
平成28年
7

茨歯会報 No.567

Ibaraki Dental Association
公益社団法人 茨城県歯科医師会

Contents

デンタルアイ 1
小野寺　鏡　子

理事会報告 4

会務日誌 5

センターだより 9

専門学校だより 12

地区歯科医師会だより 13
大　津　　亮
酒　寄　江　章

同好会だより 20
宮　崎　善　久

リレー通信 23
塩　野　宗　則

レディースコーナー 25
坂　本　かづよ

国保組合 NEWS 29

赤えんぴつ 30

表紙写真について

木曽駒ヶ岳
高山植物が咲き乱れる梅雨明けの千畳敷カールを訪れました。
千畳敷カールは、長野県南部、約2万年前に氷河の浸食によってできた窪地（カール）で、畳を千畳ほどの広い土地であることから“千畳敷カール”と名付けられました。
標高2600mのお花畑までロープウェイで訪れることができます。秋は紅葉、冬は雪山と、一年を通して素晴らしい絶景に出会える場所です。
（社）水戸市歯科医師会　飯島 重樹

ホームページアドレス
http://www.ibasikai.or.jp/

DENTAL eye

地域包括ケアシステムの取り組み姿勢

理事
小野寺　鏡　子

昨年６月に新理事として介護を担当する事になりました小野寺です。今迄、歯科医師会の会務に全く携わった事のないまま理事就任となりましたので、この介護を取り巻く待った無しの状況下で、皆様にご迷惑がかからぬ様、他の理事の先生方や介護委員の先生方に支えられてのあっという間の一年でした。

皆さんもご存知の様に日本は諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進行しています。65歳以上の人口は現在3,000万人を超え、2042年の約3,900万人でピークを迎え、その後も75歳以上の人口割合は増加し続ける事が予想されています。団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年（平成37年）以降は、国民の医療や介護の需要がさらに増加する事が見込まれています。

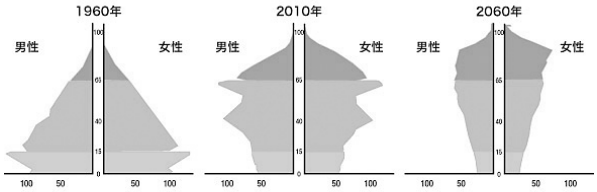
この為、国は『2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける事が出来る様、地域の包括的な支援・サービス提供（地域包括ケアシステム）の構築を推進』しています。

先日、茨城県歯科医師会では「茨城県　在宅歯科医療に関する実態調査」というアンケート調査を実施しました。アンケートの歯科診療所配布件数は1,184件で回収は523件（回収率44.2％）の結果ですが、「地域包括ケアシステム」の認知状況についての設問では「知っている」が44.2％、「聞いたことはあるが内容は知らない」が46.1％、「聞いたこともない」が7.8％…つまり、よく解っていない方が53.9％と半数以上もいらっしゃる事が分かりました。

この目前の超高齢化社会に私達歯科医師も「地域包括ケアシステム」「医療・介護の連携」は進んで取り組まなければならないところに来ていると思います。

では、私なりに分かり易く説明してみましょう。理解には人口ピラミッドを知るのが一番だと思います。

人口ピラミッドの変化



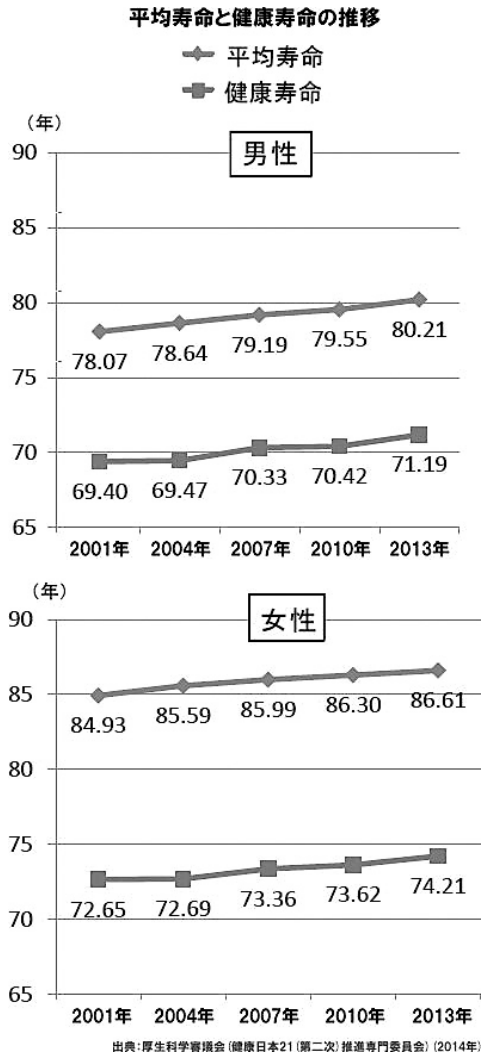
(注)縦軸は年齢、横軸は人口(単位：万人)。
(出典)1960年および2010年は総務省「国勢調査」、2060年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」の出生中位・死亡中位推計。

1960年では「ピラミッド」の名を頷かせる形をしていましたが、この時底辺だった団塊の世代が経年的に上がって大きな高齢化のうねりとなり、同時に出生率の減少により働く世代・子供の数が減少していきます。（少子高齢化）

高齢者数が増す事は医療費も増加する事にな

ります。この膨れ上がった医療費が国の財源を脅かすほどになっていきます。この増加する有病高齢者のために病院や施設を増築しても、その後の人口減少時代にはこれら箱ものは不必要なものとなってしまいます。そこで無駄になる箱ものを造らない『在宅でのケア』が必要になってくるのです。

2013年の日本人の健康寿命は、男性が71.19歳、女性が74.21歳で平均すると72.7歳です。一方、平均寿命は男性が80.21歳、女性が86.21歳、平均すると83.41歳です。この二つの乖離している10年間が問題なのです。誰かの支援や社会的な何らかの援助がないと生活できない《虚弱化した期間》があるという事です。



「フレイルティと生きる＝虚弱化した期間」に人生が入ったら、いかにしてその人らしい生活を維持・支援していくか、そこに適切な医療・介護の介入が最も重要な課題となります。寝たきりのままの長寿化は嫌ですよね。

口から食べる事は、生命を維持するための本能的な営みであって、人生の潤いであり、喜びで、食事を楽しむ事は人だからこそ感じる文化的な行為です。私達、歯科医師はこの根幹のところで関わる事の出来る唯一の職業です。

前に戻って、アンケートではキーポイントとなる訪問歯科診療の取り組みについても尋ねていますが、「訪問診療を行っている」は36.9％、「行っていない」が62.9％でした。行っていない理由としては「訪問診療まで手がまわらない」が53.8％で最も多く、次いで「スタッフが未整備である」44.4％、「訪問診療の依頼がない」41.9％、「器具機材がない・準備が大変である」39.2％という回答が得られました。

《Happy people live longer》楽しく充実した人生を目指す事が真のアンチエイジングです。死のその時まで食事が取れるという事は重要な要素で、その為には口腔ケアが必須です。人生最後の時まで居心地のいい場所に居て、口から食べて、眠るように亡くなる…。

そんな天寿を全うするお手伝いが出来るのも歯科医師冥利に尽きるところだと思います。

地域には人口が横ばいで75歳以上が急増する大都市、75歳以上の人口増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差があることから、地域包括ケアシステムは「保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要」と主体が都道

府県・市町村である事を謳ってあります。

茨城県歯科医師会では「地域医療大革命」とも言われているこの少子高齢化の大きなうねりの水先案内人として、会員皆様への地域包括ケアシステムの周知と共に訪問歯科診療実施医療機関の増加の為の努力をしていきたいと思っています。

皆様の診療室まで足を運べなくなった長くかかりつけだった患者様への１歩からをお願いして結びと致します。

理事会報告

第３回理事会

日時　平成28年６月９日（木）午後４時
場所　茨城県歯科医師会館　会議室

１．報　　告

⑴ 一般会務報告
⑵ ６月開業予定の歯科医院について
⑶ 疾病共済金の支払について
⑷ 個人住民税の特別徴収について
⑸ 関東信越厚生局報道関係者向け資料について
⑹ 後援依頼　茨城における小児の発達を支える地域リハビリテーションを考える会
⑺ 各委員会報告について
　医療管理委員会、地域保健委員会、社会保険委員会、専門学校

２．協議事項

⑴ 第161回定時代議員会事前質問の取り扱いについて
　標記事前質問について回答担当者を決定した。
⑵ 第１回地区会長協議会について
　標記会議について追加議題含め承認した。
⑶ 堀会長時局講演会について
　標記講演会について講師謝礼は前会長と同様とすることとした。
⑷ 茨城県歯科医師会健康フォーラム開催案について
　標記健康フォーラムについて日時、場所について承認した。
⑸ 平成28年度各国税局管内税務指導者協議会の開催について
　標記協議会について例年同様参加することとした。
⑹ 防災危機管理委員会講演会の開催について
　標記講演会の開催について承認した。
⑺ フッ化物応用研修会講師謝礼について
　標記講師謝礼について承認した。
⑻ 寄付受け入れについて
　寄付受け入れについて承認した。
⑼ 弁当プロジェクトについて
　標記プロジェクトについて承認した。
⑽ 県民向け歯科講演会の開催について
　標記講演会の開催について承認した。

会務日誌

６月２３日　第161回定時代議員会を開催。公益社団法人茨城県歯科医師会平成27年度決算に関する件について議事を執り行った。

出席者　小澤代議員会議長ほか61名

６月２３日　第３回広報委員会を開催。会報６月号の校正、会報７月号の編集、次年度の事業について協議を行った。

出席者　小林広報委員長ほか５名

６月２３日　第１回地区会長協議会を開催。平成27年度シニア共済収支決算、会費・負担金等未納状況、地区歯科医師会入会金・会費、口腔センター土浦の移設、平成28年度モデル地区でのフッ化物応用推進事業、茨歯会の収支の今後、後期高齢者医療広域連合の歯科健診事業、地区における未就業歯科衛生士のための復職支援講習会開催について協議を行った。

出席者　間宮日立歯科医師会長ほか28名

６月２３日　歯科特殊健康診断認定講習会を県南生涯学習センターにて開催。産業口腔保健統括マネージャーの戒田敏之氏が「歯科医師による健康診断」について講演を行い、その後質疑応答を行った。

受講者　35名

６月２４日　茨城県看護協会総会が県民文化センターにて開催された。

出席者　森永会長

６月２４日　第２回オープンキャンパスを実施。歯科衛生士科に23名、歯科技工士科には２名の参加があった。

６月２４日　茨城県学校保健会評議員会が県メディカルセンターにて開催され、平成27年度事業報告並びに決算報告ほかについて審議が執り行われた。

出席者　森永学校保健会副会長ほか２名

６月２７日　Ｇ７茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会第３回総会がつくば市「文部科学省研究交流センター」にて開催され、大臣会合の結果概要報告ほかについて協議が行われた。

出席者　鈴木事務局長

６月２８日　茨城県介護保険審査会（全体会）が県庁にて開催され、会長・会長代行の選出ほかについて協議が行われた。

出席者　小野寺理事

６月３０日　第３回歯科助手講習会を開催。「建物・什器・ガス・水道・電気などの保全管理、清掃の基礎」「歯内療法」について講義を行った。

受講者　53名

６月３０日　第１回学校歯科委員会を開催。平成28年度事業、事業計画・予算、ポスターコンクール及

び標語コンクール、健診結果のお知らせ、よい歯の学校表彰調査書並びに審査基準について協議を行った。

出席者　千葉学校歯科部長ほか10名

６月３０日　第３回地域保健委員会を開催。高齢者よい歯のコンクール、歯科保健賞、噛むかむレシピコンテスト、生活習慣病対策事業と禁煙支援研修会、出前教室、フッ化物活用事業研修会について協議を行った。

出席者　渡辺地域保健部長ほか７名

６月３０日　親と子のよい歯のコンクール審査会を開催。14組の応募があり、審査の結果、最優秀に近梓・瑛斗さん親子（水戸市）を、優秀に廣川佳代子・愛七さん、田山理恵・ひなのさん、西川由紀子・瑞姫さん、大川恵里・穂乃さん、鶴田直樹・空希さん、篠崎友紀・柚佳さん親子が選ばれた。

出席者　根本県保健予防課課長ほか４名、森永会長ほか10名

６月３０日　新規指定個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。

対象医療機関　３

６月３０日　第３回口腔センター土浦移設検討臨時小委員会を開催し、口腔センター土浦移設に必要な設備について協議を行った。

出席者　黒澤口腔センター土浦移設検討臨時小委員長ほか10名

７月　２日　石岡市歯科口腔保健条例成立記念式典が「石岡ひまわりの館」にて開催され、体験コーナー出展及び講演が行われ、藤田コーディネーターが『生涯を通じた歯と口の健康づくり』について講演し、260名の参加があった。

出席者　森永会長ほか１名

７月　３日　口腔ケア講習会を県南生涯学習センターにて開催し、「お口でおいしく食べるために」をテーマに、歯科衛生士による実技指導を交えて、野木隆久介護保険委員が講演を行った。

受講者　37名

７月　６日　茨城県要保護児童対策地域協議会代表者会議が福祉相談センターにて開催され、要保護児童対策の現状等ほかについて協議が行われた。

出席者　森永会長

７月　６日　第４回社会保険正副委員長会議を開催。第４回委員会、指導、疑義、Ｑ＆Ａ、審査内容、理事会、厚生局への定時報告書式変更、保険外併用療養（義歯名入れの件）、各地区からの保険質問への対応について協議を行った。

出席者　榊社会保険部長ほか２名

７月　６日　第４回社会保険委員会を開催。疑義、Ｑ＆Ａについて協議を行った。

出席者　榊社会保険部長ほか20名

７月　７日　茨城県認知症施策推進会議が県庁舎にて開催され、県の認知症対策の現状と課題ほかについて協議が行われた。

出席者　森永会長

７月　９日　歯科特殊健康診断認定講習会を古河福祉の森会館にて開催。「歯科医師による健康診断」

と題して、産業口腔保健統括マネージャーの戒田敏之氏が講演を行い、その後質疑応答を行った。

受講者　25名

７月１０日　第１回学術委員会を開催。がん医科歯科連携シンポジウム、歯科医学会誌の校正、睡眠時無呼吸症講習会、シンポジウム、栃木県歯科医学会、第25回歯科医学会、（仮）茨城県歯科医師会健康フォーラムについて協議を行った。

出席者　岡﨑学術部長ほか10名

７月１０日　がん医科歯科連携シンポジウムを開催。がん診療における医科歯科連携に関する講演、がん診療連携拠点病院と地区歯科医師会の連携事例報告が行われた後、ディスカッションを行った。

受講者　105名

７月１２日　第１回摂食嚥下研修会を開催し、食べるための構造とメカニズムについて研修を行った。

受講者　73名

７月１３日　新規に指定を受けた医療機関への個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。

対象医療機関数　６

７月１４日　第４回歯科助手講習会を開催。「共同動作」、「保存修復」、「歯冠修復」、「有床義歯」、「歯周治療」について講義を行った。

受講者　55名

７月１４日　保険医療機関を対象とした個別指導が茨城県市町村会館にて実施された。

対象医療機関数　３

７月１４日　第２回厚生委員会を阿見町内にて開催。第38回茨城県歯科医師親善地区対抗ゴルフ大会、県民歯科保健大会後の一般市民向け講演会について協議を行った。

出席者　増本厚生部長ほか10名

７月１４日　第４回理事会を開催。茨城県内の大学等に通学している学生の健康・栄養状態及び食育に対する意識に関する調査研究、市民公開講座への後援名義の使用、第３回「地域包括ケアシステム・医療連携構築セミナー」の後援、第16回「後発医薬品使用促進セミナー」後援依頼、リハビリテーション・ケア合同研究大会茨城2016後援依頼、第20回茨城県総合リハビリテーションケア学会学術集会協賛・広告のお願い、第80回全国学校歯科保険研究大会ポスター発表、平成28年度学校歯科保健研修会講師謝礼、在宅療養支援歯科診療所の施設基準にかかわる講習会講師謝礼、まつりつくば2016への補助、第80回全国学校歯科保健研究大会記念文部科学大臣表彰被表彰候補者の推薦、事務局規程改正、茨城歯科専門学校学則改正案、茨城県・高萩市総合防災訓練、茨歯会災害対策本部規定・運営細則（案）の検討、いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会講演会開催、（仮称）島田洋七氏講演会ご後援のお願いについて協議を行った。

出席者　森永会長ほか17名

７月１４日　第３回在宅歯科医療連携室運営委員会を開催。訪問歯科診療回数とポータブルユニット使用実績報告ほかについて協議を行った。

出席者　森永在宅歯科医療連携室運営委員長ほか７名

７月１５日　四師会懇談会が本年度は県薬剤師会の当番にて水戸市内において開催された。

出席者　森永会長ほか６名

７月１９日　茨城県歯科専門職連絡会が健康プラザで開催され、渡辺常務理事が「効果的な歯科疾患予防」について、藤田コーディネーターが「茨城県歯科医師会の普及啓発事業」についてそれぞれ講演した。

受講者　県・市町村歯科専門職　15名

７月２０日　未就業歯科衛生士復職支援のための講習会を開催。シャープニング、スケーリング、エアフローの実習を行った。

受講者　７名

会員へのお知らせ

日本歯科医師会福祉共済制度について

1. 死亡共済金受取人順位の変更について

受給権者をあらかじめ指定した方で、結婚、離婚、再婚、死別などにより受給権者の状況に変更があった場合（指定の確認は茨城県歯科医師会までお問い合わせ下さい）。

2. 火災・災害共済指定物件の変更について

住宅及び診療所所在地の変更があった場合（変更届出前に火災、災害に遭われた場合、所定の共済金が支払われないことがありますので、変更時に必ずお届け下さい）。

※ これらの変更については、所定の様式がございますから、茨歯会事務局（TEL 029-252-2561：担当 根本）までご請求願います。

センターだより center

（公社）茨城県歯科医師会主催『平成28年度 第１回 障害児・者歯科講演会』報告

（公社）茨城県歯科医師会　口腔センター水戸
関口　浩、村居　幸夫
征矢　亘、森永　和男

はじめに

平成28年６月５日（日）に茨城県歯科医師会館講堂におきまして、（公社）茨城県歯科医師会主催の第１回障害児・者歯科講演会が開催されました。今回は「摂食嚥下機能の正常発達と発達期障害児者への対応」と題して、野本たかと先生（日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座教授）（写真１）にご講演いただきました。本講演会には歯科関係者以外に障害者に携わる多職種の方、障害者家族、学生など133名の参加者の皆様にご来場いただき、熱心に拝聴されていました。講演終了後には参加者と活発な質疑応答が交わされ、盛会のうちに終了しました。本講演会について、アンケート結果をもとにご報告します。

写真1
野本　たかと先生

講演内容の要旨

摂食機能の発達は、おおよそ１歳～１歳半の間に完成するといわれています。摂食機能は、乳幼児期の様々な体験学習が感覚刺激となって発達します。しかしながら、発達期の障害児・者ではこれらの学習不足あるいは誤学習などによって摂食嚥下機能に問題が生じています。「丸飲みしてしまう」、「あまり咬まない」、「食事中にむせる」などの臨床症状は、誤嚥や窒息の危険性が高まってしまいます。それらを防止するためには、再度正しい学習をすることによって正常発達へと近づけることが重要となります。

摂食機能の正常発達過程を知ることは、障害児・者の摂食場面での問題点を把握する上で重要であります。摂食機能の発達について、1995年に向井美恵先生が学会誌に報告した「摂食機能の獲得の８段階」は簡便でかつ分かりやすく、その段階での特徴的な動きや症状、それに対する指導法などがわかりやすく記されており、私の診療科のみならず多くの場で摂食に何らかの問題のある障害児・者のみならず健常者に対しても用いられています。

そこで、摂食機能の正常発達と発達期の障害児・者への対応についてお話しさせて頂き、発達期の障害児・者が“おいしく、楽しく、安全”に食べるための一助になれば幸いです。

アンケート集計結果

受講された方々には所定のアンケート用紙に無記名で記載をお願いし、講演会終了後に回収しました。アンケートを集計し、その結果をまとめたので報告します。

1）受講者数とアンケート回収率

受講者数は133名であり、アンケート提出者数は108名で回収率は81.2%でした。

2）性別・年齢

性別は女性が90.9%、男性が9.1%でした。年齢は40歳代が25.9%と最も多く、次いで、20歳代が23.2%、50歳代が22.2%、30歳代が20.4%であり、60歳代が8.3%の順でした。

3）職種

受講者の職種の一覧を表１に示します。

歯科衛生士と歯科医師を合わせると38名（36.2%）であり、その他、様々な職種、家族、学生が出席していました。

表１　受講者の職種

職　種	名（%）
歯科衛生士	27（25.7）
歯科医師	11（10.5）
看護師	9（8.6）
施設職員	9（8.6）
管理栄養士	5（4.8）
学生	5（4.8）
特別支援学校教員	4（3.8）
幼稚園、保育園職員	4（3.8）
養護教諭	4（3.8）
保育士	3（2.9）
支援員	3（2.9）
保護者家族	2（1.9）
児童指導員	2（1.9）
教員	2（1.9）
栄養教諭	1（0.9）
言語聴覚士	1（0.9）
歯科助手	1（0.9）
調理師	1（0.9）
地方公務員	1（0.9）
学生	5（4.8）
その他	5（4.8）
計	105（100）

※無回答の８名は除く

4）受講者による評価

講演内容に対する受講者の評価を表2に示します。

「非常に良かった」が90名（83.3%）で、８割以上を占めていました。

表２　受講者による評価

評　価	名（%）
非常に良かった	90（83.3）
良かった	18（16.7）
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
計	108（100）

5）受講者の感想・意見

講演内容に関する受講者の感想・意見は以下のとおりでした（一部記載）。

・離乳食指導・幼児の食事指導の場で役に立つ情報が多くありました。わかり易く具体的な講義をありがとうございました。

・一つの機能についてなぜそうでなくてはならないのか（発達の意義）、なぜそうではいけないのかというイメージがわいて理解しやすかったです。

・実際、毎日の業務で重身の利用者の世話に直面しております。高齢者介護を７年しておりましたが、話は出来ない、なにを欲しているのか良く分からない手探り状態の中、大変勉強になり今後の業務遂行に生かしていきたいと思いました。

・４月から支援員を始めて、先輩に指導を受けながら食事支援してきましたが、詳しい理由がちゃんと理解できてよかった。明日から実践していきたいと思いました。障害にも色々あるのでその障害の見分けをしっかりしていきたい。

・摂食機能の獲得段階ごとにわかりやすくまとめてあり、今後の仕事に役立てられると思います。動画もあり、より理解も深まり

ました。ありがとうございました。

・保護者からよく食事に関する相談が多いので、因果関係が良くわかり説明しやすくなりました。おやつやミルクを止めてと伝えてくる人には困ってしまいますが、きちんと詳しく説明し理解してもらえればそういったことも少しずつ改善されるかと思います。

・現在、小児を中心に診療していて何人か障害児も診ており、とても興味があり参加させて頂きました。同時に訪問歯科で老人を中心に診ていることもあり、両方の患者様の見方が少しずつ変わっていくと思います。ありがとうございました。

・摂食機能の獲得段階、その段階段階で必要なことをいつも指導して頂いていますが、今日は改めて必要なことを学びました。とても勉強になりました。日々子供の摂食では、これでいいのかと悩むことばかりですが、焦らずにやっていこうと思います。ありがとうございました。

・大変分かりやすくご講演してくださりありがとうございました。障害児だけでなく、健常児が正しく発達する過程もお話しいただいて日常の診療の中で保護者の方への指導の助けとなりました。

今回の講習会が受講者にとって医療、介護支援の現場における種々な問題・疑問の解決に役立つ内容でありましたら幸いです。今後も受講者の方々の要望を考慮して実りある講演会を企画していきたいと考えています。

写真２　講演会風景

次回（公社）茨城県歯科医師会主催の
障害児・者歯科講演会のお知らせ

大会：第25回茨城県歯科医学会
障害児・者歯科講演会

日時：平成29年３月12日（日）

時間：午後１時～３時

場所：水戸プラザホテル

講師：戸谷　剛先生
（子ども在宅クリニック あおぞら診療所墨田 院長）

演題：小児在宅医療における地域連携（仮題）

専門学校だより

歯科衛生士科研修旅行
第34回日本顎咬合学会学術大会に参加して

６月12日（日）から14日（火）の期間、歯科衛生士科の研修旅行が実施されました。１日目は歯科技工士科とともに「東京国際フォーラム」で開催された第34回日本顎咬合学会学術大会に参加しました。（歯科衛生士科３年生48名、引率２名、歯科技工士科２年生11名、１年生５名、引率２名）

学会は「新・顎咬合学が創る“健口”長寿」をメインテーマに11日（土）の特別講演から始まり、一般講演、テーブルクリニック等、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士から多数の講演、発表がありました。

本校、歯科衛生士科３年生の白戸美香さん他６名が、『学生の口腔内状況と咀嚼力の関係』についてポスター発表しました。

大きい会場と大勢の人の前で、堂々と発表できたことで自信がついたことと思います。

大会終了後、土浦石岡支部の上濱正大会長を囲んで全員で記念撮影をしました。

その後、歯科衛生士科は、新幹線で大阪へ向かい、２日目はUSJにて一日楽しみました。

学生も話題の新型ジェットコースター『ザ・フライング・ダイナソー』に乗車し、教頭先生、征矢教務部長、専任も挑戦しましたが、２度目はありませんでした。学生は３回乗ったなど若さには勝てないとつくづく思いました。３日目は道頓堀での自由散策を楽しみました。

２日間ともお天気に恵まれ、学校では見ることのない学生の笑顔がとても印象的でした。

学校生活だけでは学ぶことのできない団体行動や、仲間の大切さ、思いやりなど新たな一面を学ぶ機会となり、有意義な３日間となりました。とても思い出深い研修旅行になったことと思います。

（文責　川崎　庄司）

赤えんぴつ

二十数年前に開業した頃の話です。我が家の子供達は小さく保育園の世話になりました。当時、入園時に待機児童問題で苦労した記憶はなく、希望してスムーズに入れたように覚えています。ありがたい事に保育園では、優しく頼りがいのある先生方に出会え、大変助けられました。

時は流れ、その長女も東京に嫁ぎ、今年２月に女の子を出産しました。初孫です。７月から御主人がアメリカ留学することになり、２年間ニューヨークで暮らす事になりました。娘の希望では、帰国後、育休・産休が明けたら仕事に復帰したいとのこと。今から「東京で保育園が見つからないのではないか？」と心配している。

少子化が進んでいるのに、保育所のニーズが高まっている。バブル経済が崩壊した1990年代初め、共働き世帯が専業主婦世帯を上回り、保育所を必要とする親が増え、待機児童問題が顕在化したらしい。

「保育園落ちた日本死ね」と娘がつぶやかぬように！親の私も今から心配している。「保育園入った、日本頑張ろう」とつぶやいて欲しいと願っている。

（和）

初夏の一日、御嶽山に登山しました。現在も噴火口から1.6kmは立入禁止のため主峰の剣ヶ峰（3063m）には登れませんが、外輪山の摩利支天山（2959m）は岐阜県側から登山可能です。６時間のドライブで登山口にたどり着き、車中泊。

翌朝４時に起床、日の出前の薄暗い森の中に整備された登山道が続きます。登山口から五の池小屋まで、およそ100mごとに０～42までの標識があり、32の標識には森林限界と記載がありました。北側に開けた場所から、雪を頂いた石川県の白山、北アルプスの鷲羽、水晶、笠が岳、大きな乗鞍岳。東側には、南アルプスの山々と富士山が小さく見えました。

さらに外輪山のふちにあたる摩利支天乗越まで登ると、立ち入り禁止のロープの向こうに賽の河原と二の池の山小屋、剣ヶ峰と火口から上る噴煙が見渡せました。合掌。

さらに痩せた尾根に沿って摩利支天山の三角点に到達。

ほとんど登山者にすれ違うことなく、貸切状態で絶景を楽しむことができました。

下山後は、登山口にあたる濁河温泉の市営露天風呂で汗を流しました。

ここは標高1,800mの高所で群馬県の万座温泉と並ぶ、通年自家用車でたどり着ける日本最高所の温泉だそうです。鉄分による茶色いにごり湯が特徴で、かつて、漢方薬で有名なＴ社の入浴剤「奥飛騨の湯・濁河」として市販されていたそうです。

源泉かけ流し、庭園のような露天風呂も貸切状態で最高の登山の締めくくりでした。

写真は二の池小屋付近で撮影しました。

（樹）

７月24日（日）に私の通っているギター教室の発表会が柏のライブハウスで開催されました。今までは土曜日の開催が多く、仕事で参加できなかったのですが、今回は日曜日に開催するとのことで、思い切って初めて参加することにしました。朝９時から夜８時頃まで一日中貸し切りで、小学生の子供から年配者まで総勢80人の生徒が日頃の練習の成果を発表しました。伴奏はバンド形式で、プロの講師の先生方が演奏してくれるので、今日は主人公になったつもりで演奏できました。

発表会は朝から夜まで全部で３部に分かれており、私の出番は午後１時からの第２部の３番目で、曲目は敬愛するエリック・クラプトンの「アンプラグド」というアルバムに入っている「ティアーズ・イン・ヘブン」です。会場のあるJR柏駅に着くと、何とビルと人の多い事、土浦とは全然違います。さすがに千葉県の柏は都会だなと思いました。道に迷いながらライブハウスに着くと、出番

が３番目のため、すぐにステージの袖に通され準備が始まり、あっという間に出番が回ってきました。ステージは客席よりかなり高い位置にあり、照明で観客席はあまりよく見えませんでした。実際に演奏してみると、２週間前にスタジオでリハーサルをやり、目をつぶってもできるくらい練習したのに、いざステージに上がると手が震えてしまい、上手く弦が弾けず、おまけに最悪なことに、妻に夏風邪をうつされてしまい（自分だけ楽しんでいる事の恨みかも？） 声もうわずり気味で、思った実力の60パーセントくらいしか演奏できませんでした。どうも私はプレッシャーに弱く、５月に21年ぶりに参加した三師会のゴルフコンペに参加した時でも、目の前に池があると、何発も吸い込まれるように打ち込んでしまいました。

でも、これで少し要領が分かったような気がするので、１年に１回ですが、なかなかこのような大勢の人前で演奏する機会はないので、この機会を逃さずに、次回演奏するときはもう少し上手く演奏したいと思いました。

（勝）

有限会社 アイ・デー・エス は、

各種保険の代理店・集金業務

を行っております。

損害保険取り扱い

医師賠償責任保険
個人情報漏洩保険
所得補償保険
長期障害所得補償保険
家族傷害保険
デンタルファミリー傷害保険
ゴルファー保険
自動車保険
火災保険

生命保険取り扱い

朝日生命保険
日本生命保険
三井生命保険
明治生命保険
住友生命保険
第一生命保険
グループ共済保険
小規模企業共済
損保ジャパン日本興亜ひまわり保険
アメリカンファミリー保険
東京海上日動あんしん生命保険
三井住友海上あいおい生命保険

新規加入、増額変更、何なりとご用命ください。

有限会社 アイ・デー・エス

代表取締役 森永　和男
水戸市見和 2 丁目 292 番地の 1 茨城県歯科医師会館内　Tel:029-254-2826

みんなの写真館

Photo Gallery

花畑の中の登山道	チングルマ
シナノキンバイ	コイワカガミ
乗越浄土から木曽駒ヶ岳	チシマギキョウ

(社)水戸市歯科医師会　飯島 重樹

会員数

平成28年6月30日現在

支部	会員数(前月比)	
日立	123	
珂北	138	
水戸	156	
東西茨城	74	
鹿行	105	
土浦石岡	173	
つくば	120	
県南	174	+2
県西	152	
西南	107	
準会員	1	
計	1,323	+2

1種会員	1,147名
2種会員	42名
終身会員	133名
準会員	1名
合計	1,323名

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

Ibaraki Dental Association
公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨　歯　会　報

発行日　平成 28 年 7 月
発　行　茨城県歯科医師会　水戸市見和 2 丁目 292 番地
電　話　029(252)2561～2　FAX　029(253)1075
ホームページ　http://www.ibasikai.or.jp/
E-mailアドレス　id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人　征矢　亘
編集人　菱沼　一弥

VEGETABLE OIL INK　この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。